

周辺地域と連携した 甌島地域の観光活性化に係る調査事業

- 調査報告書 -

令和5年2月28日



甌島観光はツーリズムビジョンの策定を経て、体験プログラム等の拡充により滞在型観光への転換を図り、平均滞在日数が増加する等の兆しが見えていた。甌島へのアクセスは、薩摩川内市及びいちき串木野市（以下、「両市」という。）からの航路があり、それぞれが新たなファンづくりに注力してきた。

令和2年度の甌大橋の開通に伴い、上甌島下甌島間の行き来が容易となり、それぞれが有する特徴を活かした離島観光としての一体的な取り組みが期待される場所であった。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、移動制限・自粛の地域観光への影響は著しく大きい。令和2年9月以降には、県民割りやGoToトラベルキャンペーンの対象となり、旅行の費用負担が軽減されることなどを通じて甌島にも多くの観光客が来訪し、大きな恩恵を受けた。一方で、ランチを食べる場所やレンタカーが不足する等の基盤の脆弱性も露呈した。

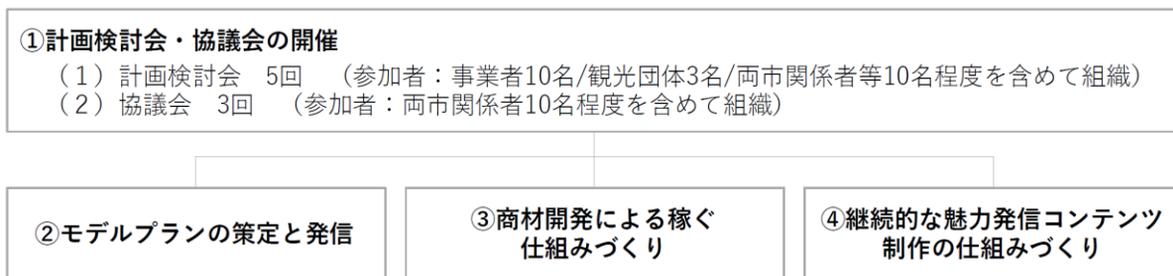
令和3年度はコロナ禍という特殊事情も勘案しながら、甌島と本土が一体となった観光振興の取り組みの方向性について、島内事業者との意見交換、並びに両市観光団体・行政との協議を行ったが、活動期間の半分程度が新型コロナウイルス感染症拡大による移動制限等の影響を受け、いくつかの課題を残している。

特に、新型コロナウイルス感染症の影響などの先行きが不透明な中、観光関連ビジネスとして展開するにあたっては、以下の環境整備が課題となっている。

- ① 移動制限の影響を抑えた3エリア（甌島と本土の両市）の観光関係事業者・団体間の円滑なコミュニケーション
- ② 各事業者の各々の個性を際立てつつ、相乗効果を生み出す体制づくり
- ③ 3エリアに共通するテーマ・資源に基づいた広域的な観光誘客の仕組み

本事業では、上記3点に留意しながら、3エリアの広域的な観光誘客の仕組みづくりを目指す。

<事業の構成>



(1) 計画検討会の開催

①第1回 新しい旅行スタイルの理解促進と課題出し

日時：2022年7月28日(木) 14:30～17:00

場所：薩摩川内市 SSプラザせんだい 103会議室

出席者：

<薩摩川内市 観光物産課>

<いちき串木野市 シティセールス課>

<薩摩川内市観光物産協会>

<いちき串木野観光物産センター>

<九州経済産業局 電力・ガス事業課>

<専門家>

<jeki事業チーム>

【議題と討議結果】

1. 九州経済産業局 ご挨拶
2. 出席者ご紹介 (両市市役所代表より参加メンバーを紹介)
3. 計画検討会議題
 - 1) 本事業の概要
事務局より今年度事業の全体概要を説明
 - 2) R3年度事業の振り返り
事務局より今年度事業の経緯として昨年度事業の取り組みと結果概要を説明
 - 3) R4年度事業について
事務局より、特に計画検討会として実施する内容を中心に説明
 - 4) 今後の活動に関する協議

■専門家講義

グループワークに先立ち、専門家より、甕島と両市本土の広域観光の考え方のヒントとして、資源の捉え方、それを来訪者に魅力として感じさせるポイント、ルート検討に必要な視点について講義を実施。

コロナ禍以降の、観光業を取り巻く環境が大きく変化している状況、生活者が旅に求めるニーズの変化や学習旅行の新しい潮流など、今後の広域観光を考えるにあたって考慮すべき背景の変化について知見を提供いただいた。

■グループワーク&ディスカッション

出席者が2グループに分かれ、それぞれが本事業で検討する広域ルートについて、どのようなターゲットにどんなテーマで訴求していくかを協議し、出された意見を取りまとめ、グループごとに発表した。

後半では、グループワークで出された意見を、改めて整理しなおし、テーマとなり得そうなものをグルーピングし、想定するターゲットについても参加者の考えを抽出した。

最後に、テーマのグループ、想定ターゲットについて、参加者全員で投票を行い、その結果を全体で共有しながらディスカッションを行った。

今回の議論の結果を事務局でいったん整理し、今後継続的に検討する方向性の材料とすることとなった。

■次回計画検討会に向けて

第1回目の検討を踏まえ、次回の計画検討会の方向性を確認。日程や場所など詳細は今後調整の上決定することとした。

第2回目は、いちき串木野市での開催で検討を進めることとなった。

②第2回 資源の洗い出し・取組み課題に関する協議

日時：2022年9月7日(水) 14:30～17:20

場所：薩摩川内市 SSプラザせんだい 303会議室

出席者：

<薩摩川内市 観光物産課>

<いちき串木野市 シティセールス課>

<薩摩川内市観光物産協会>

<九州経済産業局 電力・ガス事業課>

<専門家>

<jeki事業チーム>

【議題と討議結果】

1. 前回振り返り／宿題共有

前回の討議内容の振り返りと「宿題」の回答内容の一部を参加者から補足説明。

当日の参加メンバーを考慮して、予定していた広域ルート作成に替わり、広域で取り組むテーマやそれに対応する体制整備に関する課題と、その解決の方向性について議論することを事務局より提案。参加者の承認を得て、同テーマで実施することとした。

2. 専門家講義 ※講義資料は事後共有済

専門家より、「観光・旅行を取り巻く環境やトレンドの変化」と題した講義が行われ、3つのエリアを回遊するプランの検討にあたり、検討しうる旅行形態の体系的整理と検討の視点、並びそれらの旅行形態に関する国内外の動向、具体的な事例紹介があった。

3. 計画検討会

講義の内容も踏まえ、以下の論点について参加者で討議した。

1. 既存を伸ばすか？新規を産み出すか？
2. 地域の事業者が稼ぐために一番必要なことは何か？
3. 薩摩川内市本土といちき串木野市の具体的な連携策は？
4. どんなスキルを持った人材が必要か？採用するのか？

③第3回 中長期滞在者向けサービス提供企業担当とのオンライン意見交換

日時：2022年12月14日（水） 15:00～16:30

場所：WEB会議

出席者：

<薩摩川内市 観光物産課>

<いちき串木野市 シティセールス課>

<協力事業者>

<九州経済産業局 電力・ガス事業課>

<専門家>

<jeki事業チーム>

【議題と討議結果】

1. これまでの活動の振り返り

事務局より過去2回の計画検討会での検討事項と、中長期的滞在のサービスとの連携に関する議論の経緯を説明。

2. 中長期滞在者対象のサービス提供企業（以下協力事業者）に関する意見交換

参加メンバーと協力事業者の間で、サービス内容、拠点や家守の条件等についての質問、本エリアでの展開の可能性について議論し、今後の地域の民間事業者を巻き込むための方策について具体的イメージ・方向性を共有するに至った。

3. 今後の進め方

1月、又は2月の早い時期に協力事業者の担当者を招へいし、具体的な拠点候補や家守候補の民間事業者等との現地ディスカッションを実施、翌年度以降の協力事業者会員向けプログラムの策定、試験運用について協議することとなった。

④第4回 モニターツアー行程に関する協議

日時：2023年1月20日(金) 14:30～15:30

場所：WEB会議

出席者：

<薩摩川内市>

<いちき串木野市>

<九州経済産業局>

<jeki事業チーム>

【議題と討議内容】

1. これまでの活動の振り返り

事務局より過去3回の計画検討会での検討事項と、1月31日～2月2日に実施する現地調査の趣旨等を説明。

2. モニターツアーの行程について確認・協議

1月31日～2月2日に、協力事業者（中長期的滞在者向けサービス提供企業）の拠点開発担当の協力を得て実施するモニターツアーの行程（案）を基に、その詳細について確認・協議した。

3. 今後の進め方

現地調査以降の計画検討会、協議会について確認。

⑤第5回 モニターツアーの結果振り返りと次年度活動の協議

日時：2023年2月3日(金) 9:30～10:45

場所：いちき串木野市役所 会議室

出席者：

<薩摩川内市>

<いちき串木野市>

<九州経済産業局>

<jeki事業チーム>

【議題と討議結果】

1. これまでの活動の振り返り

事務局より過去4回の計画検討会での検討事項と、1月31日～2月2日の現地調査モニターツアーまでの経緯を説明。

2. モニターツアーを経て 一両市役所参加メンバーからの報告

1月31日～2月2日に実施したモニターツアーについて、いちき串木野市、並びに薩摩川内市の担当から結果報告、所感を発表した。

3. 今後の活動の方向性協議

モニターツアーの開催を受けて、今後の甑島と本土の2エリアが連携した広域観光の推進に向けた課題解決の活動について、方向性を協議した。

(2) 協議会の開催

①第1回 本年度事業の実施の方向性

日時：2022年7月4日(月) 16:00～18:00

場所：薩摩川内市役所 会議室（一部、WEB参加）

出席者：

<薩摩川内市>

<いちき串木野市>

<九州経済産業局>

<専門家>

<jeki事業チーム>

【議題と討議結果】

1. 九州経済産業局 ご挨拶
2. 出席者ご紹介
3. 協議会議題

1) 昨年度の活動結果の概要

事務局より本事業の昨年度実施概要を説明。

2) 今年度の活動の概要

事務局より本事業の実施予定内容を説明。

3) 今年度の活動方針、内容に関する協議

- ・両市関係者は、局枠事業の方向性が、甕島を起点に2市本土エリアを含む3つのエリアの観光のブランディングを図る取り組みという枠組みとして理解。
- ・九州局枠の事業として実施するにあたり、従来型の観光による誘客に加え、他地域との競争の中で、新たな客層を取り込んでいくことの必要性を確認。
- ・従来型の観光に加え、地域課題の解決に向けた活動に来訪者を巻き込む視点や地域の取組みに「学ぶ旅」という視点など、コロナ禍以降の新たな潮流について考慮していく方向性が専門家より提案された。
- ・その点について、実務レベルへの落とし込みの観点から、市役所、観光団体、事業者それぞれの役割分担の整理と、事業推進の趣旨をしっかりと理解いただくことが重要であるとの指摘がなされた。
- ・以上を踏まえ、第1回目計画検討会については、両市担当部署と関係観光団体の参加を得て、改めて広域観光ルートの方方向性を共有・認識を深める場とすることとなった。

②第2回 中間報告

日時：2022年11月24日(月) 9:30～10:30

場所：WEB会議

出席者：

<薩摩川内市 観光物産課>

<いちき串木野市 シティセールス課>

<九州経済産業局 電力・ガス事業課>

<jeki事業チーム>

【議題と討議結果】

1. 九州経済産業局 ご挨拶
2. 出席者ご紹介 (両市市役所代表より参加メンバーを紹介)
3. 計画検討会議題
 - 1) 本事業の概要
事務局より今年度事業の全体概要を説明
 - 2) R3年度事業の振り返り
事務局より今年度事業の経緯として昨年度事業の取り組みと結果概要を説明
 - 3) R4年度事業について
事務局より、特に計画検討会として実施する内容を中心に説明
 - 4) 今後の活動に関する協議

■専門家講義

グループワークに先立ち、専門家より、甕島と両市本土の広域観光の考え方のヒントとして、資源の捉え方、それを来訪者に魅力として感じさせるポイント、ルート検討に必要な視点について講義を実施。

コロナ禍以降の、観光業を取り巻く環境が大きく変化している状況、生活者が旅に求めるニーズの変化や学習旅行の新しい潮流など、今後の広域観光を考えるにあたって考慮すべき背景の変化について知見を提供いただいた。

②第3回 最終報告・今後の活動検討

日時:2023年2月14日(火) 9:30~11:00

場所:WEB会議

出席者:

<薩摩川内市>

<いちき串木野市>

<九州経済産業局>

<jeki事業チーム>

【議題と討議内容】

1. 九州経済産業局 ご挨拶

2. 計画検討会議題

1) R4年度事業振り返り

事務局より今年度事業の取組みと1月に実施した中長期滞在向けサービス提供企業(以下、協力事業者)の担当者によるモニターツアーの内容を中心に説明

2) モニターツアーを受けての所感と今後の活動にする協議

(いちき串木野市)

- ・本事業が協力事業者のサービス活用をきっかけとして、観光や誘客の視点が広がっていくことが大事。
- ・予算計上に関しては、薩摩川内市と同様の課題はあるが、二次交通については、両市の連携による対策が必要であることは以前より検討の余地があると認識していたので、既存の事業による補助制度も活用して進められるところはあるかと思う。

(薩摩川内市)

- ・新しい需要創出になるので、良い取り組みだと思う。
- ・「家守」がいてこそなので、丁寧に作っていくことが大事で、既存の農家民泊やグリーンツーリズムとの連携なども視野に入れられると思う

(いちき串木野市)

- ・協力事業者の会員さんは感度の高い方が多いと感じているので、3エリアをつなぐストーリーは作りやすいのかなと感じた。ゆるいつながりを見せるだけで、そこから広げていく感性を持つ方が多いと思う。
- ・協力事業者のサービスを知るきっかけにもなったので、市民の皆さんに向けての講座など(観光物産センター)市民に向けた説明会などを実施すると隠れた協力者や家守、物件候補が見つかるかもしれない。両市で13万人もいるのもっと掘り起こせると思う。

(薩摩川内市)

- ・来年度に向けて、全体的なグランドデザインやコンセプトをもう少し詰めたい。
- ・観光団体との連携については両市でも検討しつつ、ご意見を頂戴したい。
- ・来年度の前半に両行政でやれることは先に進めていきたい。

(jeki事業チーム)

- ・今年度のポイントとして、3エリアをつなぐアイデアとして出てきたのが協力事業者との連携であり、モニターツアーの結果3エリアをつなぐためのヒントやきっかけづくり、新しいターゲット像について学びを得ることができた。
- ・具体的な協力事業者との連携に関して具体化には様々課題があるが、今回のきっかけを既存の枠組みに反映させるなど、様々な観点からアプローチをかけてもいいと考える。

(九州局)

- ・関係者に加え、応援者をつくるのが成功のヒントではないか。先に発言があった市民向けの説明会等、多くの人に理解いただき、応援していただくことが出来ればと思う。
- ・本事業の展開で、3エリアを繋ぐということで協力事業者のサービスをきっかけとした広域連携を進めるということで、個別の予算確保への課題などもありながら、既存事業の活用なども含めて新しいコンテンツをつくっていき、情報発信にもつなげていけるかと考える。

計画検討会で積み重ねてきた協議や専門家からの指導を踏まえ、当初想定していた1泊~2泊ではなく、中長期滞在中向けサービス提供企業（以下協力事業者）の会員に代表される中・長期滞在中で地域との交流志向を持つターゲット層を意識し、その受け皿となる滞在中の宿泊拠点や滞在中の楽しみ方について検討し、このターゲット層を意識した「モデルプラン」検討及び、そのプランの検証を行う「モニターツアー」として実施した。

（1）中・長期滞在者を想定したプラン策定

3回の計画検討会で協議、検討してきた地域の資源を基に、滞在拠点とその周辺で、地域との交流を通じて消費を促す周遊プランを検討した。

ex:滞在拠点 : 空き家、宿泊施設の空室対策、休業中宿泊施設など地域の候補資源の活用可能性について検討

ex:地域との交流 : 「家守」を通じた地域との交流プログラム、その魅力を発信する情報の整理 など

（農・漁業体験、発酵・酒蔵他地元産業の現場見学・体験、地域づくり活動への参画等）

< 検討の視点 >

※来訪者がどのような交流や学び、体験に期待するかをモニターツアー等を通じて検証

※好天と雨天、船の欠航なども意識した中・長期滞在者ならではの過ごし方の提案についても検討

※甕島を含む3エリアを対象としつつも、3エリア全ての回遊を必須としない柔軟性の高いプランを想定

（2）効果検証 1 - 2 のプランの検証

協力事業者担当者招へい時（1/31-2/2）に上記のプランを構成する資源（拠点・家守、交流プログラム等）を実際に見学・体験する機会をつくり、評価を受け、次年度以降の活動に反映することとした。

②効果検証

モデルプランの効果検証について、以下の内容で構成するモニターツアーを計画実施した。

●目的：

島と本土を両方楽しむには比較的長い滞在が必要とされる中、中長期的な滞在意向や地域との交流等に関心の高い会員を持つ協力事業者の拠点開発担当者を招へい。

他地域での会員の滞在・観光行動の特徴との比較等から、以下について議論・対応の方向性を確認する。

- ①当該3エリアの観光コンテンツが、中長期的滞在客の期待にかなう魅力を持ちうるのか。
- ②同社の会員向け「おすすめ」コンテンツとして紹介するためには、どのような魅力づけが有効であるか。
- ③同社の会員滞在時の地域のコーディネーターとしての「家守」の役割の理解の深化
- ④拠点候補物件に対する評価、事業性についての評価を確認する。
- ⑤同社と連携した具体的な取り組みの方向性、両市役所との提携等の可能性についても検討

●事前検討・活動事項：

- ①計画検討会でのピックアップ資源の整理・紹介ポイントの確認
- ②他地域事例の事前学習（協力事業者担当者に他地域の注目事例の紹介を受ける）
- ③事前学習から気づきを考慮した招へい時の行程策定

●ツアー時の活動予定：

- ①3エリアの体験プログラムや観光コンテンツの紹介
- ②3エリアの滞在拠点候補の視察、家守候補の紹介（可能であれば有力候補の面談も検討）
- ③同社会員向けの3エリアの魅力発信の方向性についての協議

1/31~2/2 九州局 飴連携事業モニターツアー記録写真（一部抜粋）

1/31 いちき串木野市 白浜温泉



2/1 いちき串木野市 白浜温泉
候補物件見学



1/31 薩摩川内市飴島里集落
候補物件見学



2/2 薩摩川内市 市比野温泉 地域事業者運営店舗見学



モデルプラン同様、中・長期滞在者をターゲットとする受入れを想定し、商材開発や稼ぐ仕組みについてもこのターゲット層を意識した検討を進めた。

(1) モデルプランに基づく旅行商品造成と販売に向けた調整

モニターツアーの開催による検証を経たモデルプランに基づき、今後の具体的な旅行商品の造成と販売に向けて、以下の方向性を共有し、次年度以降の展開に繋げていくこととなった。

<広域旅行商品の造成・販売の方向性>

- ・いわゆる「観光商品」とは違う考え方で、中長期滞在者向けに地元との交流や地域活動への参加を通じて地域での消費を促すプログラムや仕組みづくりを目指し、その実現可能性を検討する。
- ・モニタツアーにて提案した地域と中長期滞在客の交流プログラムを参照しつつ、「きゃんぱく」等両市の既存有料体験プログラムについても、中長期滞在客のニーズや行動特性を考慮した改良などにより、参加促進等の活性化の方向を探る。
- ・情報発信や販売促進について、中長期滞在中向けサービス提供企業の「家守」に準じた地元のコーディネーター（拠点に関わり、地域の体験プログラムを拠点利用者に推奨する役割）を育成・配置することを実現するため、両市観光団体とも協議の上、当該エリアの実情やこれまでの活動特性等も踏まえた実現可能性を検討する。

(2) 飲食店等地元旅行業者の巻き込みについて

モデルプランづくりやモニターツアーの実施状況や外部評価を踏まえ、今後巻き込んでいく事業者や参画の方向性（どのような商品、メニューが有効か？）を次年度展開プランを踏まえつつ、継続検討することとなった。

今年度のモニターツアーの開催を通じた対象地域の広域的な観光モデルプランの効果検証と、それを踏まえた具体的な旅行商品の造成や販売の方向性に係る協議から、今後の魅力発信コンテンツの制作に仕組みづくりとして以下の方向性を共有した。

さらに、その方向性に基づき、次年度以降の活動フレームの設定を行った。

- ・ 固定的な2~3のコースの情報コンテンツとしてではなく、中・長期滞在者にとって魅力的な3エリアの資源に関する情報を落とし込んだMAP、地域との交流や地域活動への参加など「滞在中の楽しみ方」をメインとしたコンテンツづくりを進める。
- ・ コンテンツ制作の継続的な仕組みづくりについては、両市観光団体や地域のコンテンツ制作者を巻き込みながら体制づくりを進める。
- ・ 中長期滞在者と地元住民等との交流を軸に、甕島と本土の連携という特徴ある広域連携だからこそ実現する個性的な活動について、地元の新聞、テレビ等地域のメディア関係者にも情報発信への協力を依頼していく。

(次年度以降の活動フレーム案)

今後の展開フレーム（事務局案）

